

自立活動だより

令和3年12月9日(木)

福島県立聴覚支援学校会津校自立活動係
第2号

故障かな?と思うその前に...

雪の便りが届く季節になり、肌寒い日が増えてきました。冬場は、気温が低く、空気が乾燥する上、暖房器具の使用により室内の二酸化炭素濃度が高くなりがちです。これらの影響で、補聴器や人工内耳に使用している空気電池の寿命が夏場と比べると短くなります。

次のような場合は、電池切れや電池が反応していないサインかもしれません。故障と思うその前に、電池の扱い方を見直し、快適な状態を保ちましょう。

【寒い季節に生じやすいトラブルの例】

- ▼電池を交換して間もないのに、いつもより早く電池交換のアラームが鳴る。
- ▼新しい電池を入れたのに作動しない。
- ▼新しい電池を入れたのに、すぐに電池交換アラームが鳴る。
- ▼屋外から暖かい室内に戻ったら、急に聞こえなくなった。

【電池や気温差によるトラブルを防ぐには...】

- ① 通常は、電池のシールをはがして1分程度で使えますが、寒いところでは反応が遅く、使えるようになるまで時間がかかります。夏場より、もう少し長く待つか、手のひらで包んで、電池を温めてから使いましょう。



- ② 電池は、乾燥ケースに入れないようにしましょう。補聴器に電池を入れたまま、乾燥ケースに入れると電池の寿命は通常の半分ほどに縮んでしまうことがあります。補聴器を乾燥ケースに入れる際には、電池を取り出して保管しましょう。



- ③ 石油やガスのファンヒーターやストーブを使用している場合、換気を十分に行わないと、電池の寿命が縮むことがあります。お部屋の換気をこまめにしましょう。



- ④ 寒い場所から暖かい場所に戻った時などに、補聴器のチューブの中で結露が生じることがあります。結露がチューブを塞いでしまうと聞こえなくなります。エアブローで水滴を飛ばしたり、ティッシュで作ったこより等で拭き取ったりしましょう。こよりを使用するときは、ティッシュがチューブ内に残らないよう注意してください。



11月17日に、校内研修で聴覚障害者教育福祉協会の松本末男先生を招いて、日本語の獲得のためにできることについてご講演をいただきました。その中で、聞こえにくさのある子どもたちの各成長過程で必要なことを教えていただきました。子どもたちが社会に出ていきいきと生きていく力を育てるためには、家庭と学校と両方での学びが欠かせません。特に生活の中で身に付ける言葉は、家庭だからこそ経験できることの中にたくさんあります。それぞれの成長過程で身に付けさせたいことの例としてご紹介します。

幼児期の基礎として (4歳児前半までに)

- 生活の中で守るべきことがらを知る。
- 自分の思いをことばで表せる。
- 相手の気持ちを図れる(相手の気持ちがわかる)。
- 周りの子どもや大人を好きになる。
- 自分のやりたいこと、好きなことを言葉で伝えられる。
- 場面や状況によって我慢することを知っている。
- 危ないことを知って身を守れる。

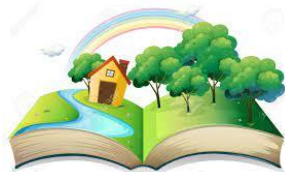


幼稚園の終わりまでに

- 生活の中でことばを使って意思を伝えられる。
- 文字の理解が進み、平仮名を読み、指文字やサインで示せる。
- 簡単な本を読んで面白さをことばで伝える。
- 自分からわからないことを尋ねたり、調べたりする。
- 自分の経験に照らして目の前で展開されることの先が読める。
- 情動的な気持ちを表すことばを出せる。
- 自分の経験のイメージが広がり、整理できる。

小学部低学年では

- 話したこと、聞いたことを書ける。
- 文を読んでイメージできる。
- 作文を書いて、発表できる。
- 語彙が広がる。
- 物語を大まかに説明できる。
- 問いかけを聞いて読んでわかり、文で答えを書ける。



小学部高学年では

- 自分の思いをしっかりと持つ。
- 相手の立場や状況がわかる。
- 様々な語彙に興味を持つ。
- 話されたことを文字で読んで理解することが多くなる。
- 言いたいことがうまく伝わらなければ、自分で書く。
- 相手に書いてもらって読む。(筆談に慣れる。)



子どもたちのことばを広げるには、次のような関わりを取り入れると良いと思います。

- ニュースや教科書で使っていることばで話しかけ、「それは何?」となった時に、わかることばに置き換えたり、わかることばで説明したりすれば、理解を助けます。
- 子どもたちが、単語で答えた時や文末を濁してしまった時には、文末で話し切るように促します。文の形で、助詞に気を付けるようになれば、より一層伝わりやすくなります。
- 話し言葉では、助詞が抜けることがあります。子どもに話しかける時には、助詞を意識して指文字で補ったり、少し強調して話したりすると、助詞に注意が向くようになります。

気付いた時に、できることを積み重ねていくことが、ことばの力になります。